

令和元年12月27日

箕輪町議会議長 中澤清明 様

福祉文教常任委員会委員長 小出嶋文雄 印

箕輪町議会委員派遣結果報告書

箕輪町議会議員の派遣等実施要領第5条の規定に基づき、下記のとおり報告します。

記

研修名	福祉文教常任委員会視察研修
研修の期間	令和元年10月15日～16日
研修の場所	岡山県鏡野町、島根県邑南町
成果 (具体的に)	別紙のとおり
委員会名 派遣議員名	福祉文教常任委員会 小出嶋文雄、中村政義、釜屋美春、松本五郎、唐澤敏、入杉百合子 寺平秀行、中澤清明議長

別紙

○岡山県鏡野町

健康づくり条例とその推進計画である健康かがみの21について視察しました。

平成17年に2町2村が合併して生まれた町です。人口：12,947人（箕輪町25,098人） 面積：419.69km²（箕輪町85.91km²）

国保の被保険者1人あたりの医療費が県内で上位にあったことから平成25年に最重点施策として健康づくりの推進をすえて町民の健康づくりの基本理念を定めた「鏡野町健康づくり条例」を制定し、条例の基本理念では「町民1人1人が主体的に取り組むこと」「町、町民、地域団体、事業者が共同して社会全体で支援する体制づくりをすること」とし、あらゆる人、地域、機関が手を取り合い、みんなで健康づくりに前向きに取り組むとなっています。

この条例の基本理念を受け「健康かがみの21」として10年計画を策定し「健康づくりは家庭から 健康長寿で まちづくり」をキャッチフレーズにすすめている。

具体的には、特定健診の受診率向上のため受診料の無料化、町で考案した健康づくり体操の普及、個人ごとに目標を決めて取り組む子どもから大人まで参加できる「健康チャレンジ90日事業」などをすすめています。

町長の「あなたの元気 あなたの健康 鏡野町の願いです」という熱い思いで健康づくりを引っ張っていく姿が印象的でした。

○島根県邑南町

1 日本一の子育て村構想について視察しました

平成16年2町1村が合併し邑南町となった。人口11,101人面積419.29km²

「日本一の子育て村を目指して～子育てするなら邑南町で～」を掲げて、身近で安心な医療体制、子ども医療費の無料化、2子目から保育料の無料化、等により、地域で子育てが出来る環境作りを進め、若者の定住を図るため、就労支援、結婚のための出会いサポート、奨学金制度などで若者の里帰り定住を図る為の教育支援、生活環境の整備等の日本一の子育て支援を行なってそれを持続させている。町役場の全ての課が子育て支援から定住支援を担っている体制が組み立てられていました。また、公民館単位の地域ごとにそれぞれ地域での子育て、人口減少対策の事業を取り組んで地域の活性化につなげていました。

参加委員の所見

【鏡野町】

○実施している内容は箕輪町が特別劣っているとは感じられないが町長の「あなたの元気、あなたの健康、鏡野町の願いです」という強い思いが町民一人一人の健康への意識を高め、協同して社会全体で支援していく体制に繋がっている。

○町民の健康が何より大切という願いから諸施策を実施している。

○「かがみの健康チャレンジ90日」と「健康ウォーク」について、僕も私も挑戦しようかなと思う取り組み方が素晴らしい。

○財政も人的資源においても限られた地方自治体の状況の中で、健康をキーワードにした意識改革を伴う町づくりは刮目に値する。

○目についたのは、「ナイター検診」、「厄年検診」だ。「かがみの健康チャレンジ90日」の参加者が町民の1割というのは町の規模にしては多い感じがした。最も気になったのは、高齢者の自殺者が多いことであり、山間地の一人暮らしという理由だけでは片づけられないものがあるような気がした。

○「かがみの健康チャレンジ90日」の取り組みに子供たちを対象にして親も巻き込んでおり、中年世代の健康委推進に箕輪町でも参考になる気がした。

【邑南町】

○町長を中心に役場内の課の垣根を超えた意識の共有の中で行われていることが素晴らしい。

○役場町内各課がそれぞれ「子育て日本一」のために何ができるかという観点から様々な施策を実施しており、諸施策に地域の温かさ、やさしさを感じた。

○医療費の中学卒業まで完全無料化、保育園、小中学校も統合しない方針、赤ちゃんが生まれると地域の田んぼなどの土手に草刈りで赤ちゃん誕生を祝う文字を作ったりして地域全体で赤ちゃん誕生を祝うことなどこんな子育ての理念が子供が大きくなって、地域を愛し、町を尊敬する人間になるのだなと感じた。

○町長の強いリーダーシップを感じた。町長の考えの中にコミュニティの重要性と自然、伝統、文化、暮らしを大切に作る姿勢が見て取れ、活気と気品の醸成を目指していることがうかがえた。コミュニティづくりの中で、既存集落の公民館活動を核に置き、行政的な支援を行う中での自主性、自律性を尊重する方針に見るべきものを感じた。

○施策を執行する役場の各課がそれぞれ子育ての事業にかかわっていることに驚いた。町長の強い思いが分かった。

○子育て文化を育てるために、役場では子育て専門の課だけでなくすべての課

が子育てに結び付く施策はないか検討する体制になっており、こうした結果が、近隣の自治体に比べて移住者の数が一桁多いという実績に繋がっていると感じた。「制度だけで比べたら邑南町より良い制度の町はたくさんあります。それでもこの町を選んで来てくれるのは、全町挙げて子育てに取り組む雰囲気は判っていたからではないか。」という担当者の言葉が印象的でした。